

【北海道新聞・日刊留萌新聞・羽幌タイムスに掲載されました】

6月14日（木）、3学年が主権者教育の一環として羽幌町議会を傍聴しました。事前学習として政治経済の授業で地方自治に関する知識を確認してから、町議会を傍聴しました。小型風力発電施設や旧宮坂デパート問題など、身近なことについての議論を熱心にメモに書き留めていました。事後指導ではアンケートを用いて振り返りを行いました。生徒からは「今までは、政治についてあまり興味がなかったし関係のないものだと思っていたが、これからは選挙権が持てる年齢になるので、自分の考えをしっかりと持ち、政治について関わっていきたい」といった感想がありました。

<北海道新聞>

羽幌高生 町議会に興味津々

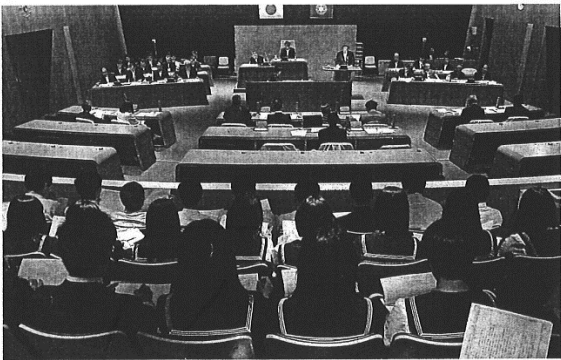
「地域の課題 関心持ちたい」

【羽幌】羽幌高（宮下裕加校長）の3年生40人が14日、町議会を傍聴した。選挙権年齢が18歳に引き上げられたのを受け、主権者教育の一環として地歴公民科の政治経済の授業の中で初めて実施した。

この日は定例会初日で議員4人が一般質問。急増する小型風力発電施設や旧宮坂デパート問題などについて議論が交わされた。生徒たちはメモを取りながら熱心に耳を傾けた。

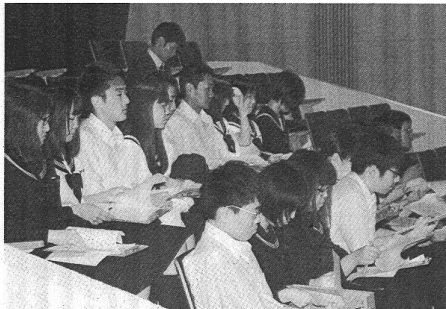
野宮友樹さん（17）は「納得するまで何度も質問し、より良い対応を求めているのが伝わった」。宮崎巧さん（17）は「秋に18歳になるが有権者の実感はまだない。新聞を読んだりして地域の課題に関心を持ちたい」と話していた。

同校は今後も議会傍聴の取り組みを続ける考えだ。（長谷川賢）



羽幌町議会の一般質問を傍聴する羽幌高の生徒たち

<日刊留萌>



理事者と議員のやりとりを聞き入る羽幌高校の3年生

議論を熱心にメモ

【羽幌】羽幌高校（宮下裕加校長）の3年生が14日、町議会を傍聴した。選挙権年齢が18歳に引き上げられたのを受け、主権者教育の一環として政治経済の授業で地方自治に関する知識を確認してから、町議会を傍聴しました。小型風力発電施設や旧宮坂デパート問題など、身近なことについての議論を熱心にメモに書き留めていました。事後指導ではアンケートを用いて振り返りを行いました。生徒からは「今までは、政治についてあまり興味がなかったし関係のないものだと思っていたが、これからは選挙権が持てる年齢になるので、自分の考えをしっかりと持ち、政治について関わっていきたい」といった感想がありました。

野宮友樹さん（17）は「納得するまで何度も質問し、より良い対応を求めているのが伝わった」。宮崎巧さん（17）は「秋に18歳になるが有権者の実感はまだない。新聞を読んだりして地域の課題に関心を持ちたい」と話していた。

同校は今後も議会傍聴の取り組みを続ける考えだ。（児玉一明）

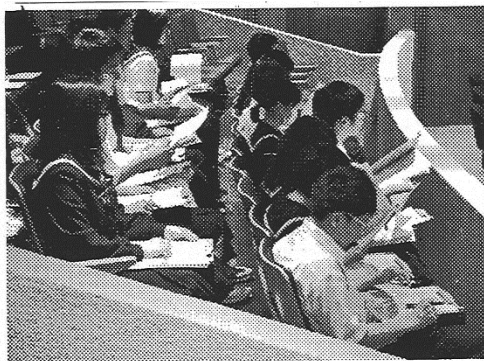
生徒たちは熱心に耳を傾けながら、やりとりの内容をメモを取っていた。

野宮友樹君（17）は「議員が町民の立場に立って何回も質問し、より良い対応を求めたいと思った。宮崎巧君（17）は「難しい言葉もあったけど、一般質問を聞き、有権者に近づいているんだと感じた」と話していた。

（児玉一明）

歴が、珍しく言葉に怒りをもっていた。常任委員会では継続するかの二アンス、駒井町長も担当課から続けたいの意向があったことを認めた。打ち切りの理由は、部業者に仕事が集まって、当選しても辞任がでることや、余裕のある人を優遇する制度との指摘を受けてのことらしい。再質問で(再開まで)少し時間がほしいと一転軟化している。

珍しく言葉に怒



羽高三年生が定例会を傍聴
町民の立場で質問、関心高まった

羽高三年生が定例会を傍聴
町民の立場で質問、関心高まった

【羽幌】羽幌高校(宮一下裕加校長)の三年生

宮崎功くんは十月三十一日生まれ、今年秋に町長選挙が予定されているが、投票日に十八歳であれば権利を行使できる。前回の平成二十六年の町長選は十一月九日だった。日程は九月定時登録の選挙管理委員会決定する

きた感じ、だんだん政治の関心が高まってきた、一日前に環境学習で小形風事を学んだことで、対応策の議論は独りの言葉、表現もあってまだ理解するのに時間がかかるかもしれないが、バードストラックの問題など、あんまり練っていないから、つたよ」と率直な感想を述べた。

してくれた。町長、課長も答弁し、完全に納得は出来なかったが、よりのよい町を求めているのがよく分った。

宮崎功くんは十月三十一日生まれ、今年秋に町長選挙が予定されているが、投票日に十八歳であれば権利を行使できる。前回の平成二十六年の町長選は十一月九日だった。日程は九月定時登録の選挙管理委員会会で決定する